

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700113		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホームたきの憩		
所在地	三重県多気郡大台町上真手405		
自己評価作成日	令和2年2月2日	評価結果市町提出日	令和2年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2492700113-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	2年	3月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、広々とした空間が特徴の施設です。一年を通し季節を感じていただけるよう環境整備や行事に力を入れ取り組んでいます。また、地域との繋がりを大切に行事を通じて地域住民との交流や触れ合いの場が持てるよう支援させていただいています。ご利用者様一人ひとり、尊重した暮らしが出来るように生活歴の把握、思いや意向の把握に努め、いつも明るく笑顔の絶えないホームでありたい。という思いを共有し、それぞれの役割を大切にしながら、生き活きと生活が送れるように職員一丸となって取り組んでいます。前回の課題でありました地域住民とのつながりをより一層深める取り組みについて、認知症カフェ、消防団との防災訓練、老人クラブの慰問を通して協力体制がとれるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに清流・宮川が流れる、のどかで自然豊かな山間部にある木造平屋建ての事業所で、中庭には金魚がいる池が有り、四季を感じさせる花や木が植えてある。昨年度職員で話し合っ作られた理念の基、管理者・職員は理念を共有しながら利用者の支援に取り組んでいる。地域の祭りや行事、催し物に参加したり、隣接集会所の利用者との交流があり、月に1回集会所のカラオケに参加している利用者がある。管理者・職員は、家族・自治会長・民生委員・地域住民・地域包括センター・協力医の理解と協力を得ながら、家庭的な雰囲気の中で、利用者が安心して生活出来る事業所を目指し支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝出勤職員で朝礼を行い、最後に「理念・心得・接遇を唱和し、共有し、業務に取り組んでいる。	理念はホールに掲示しており、毎朝の朝礼で理念を唱和している。全職員で理念を共有し、いつも明るく笑顔の絶えない事業所を目指し、利用者の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より散歩や買い物、地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深め大切にしている。	地域の人から声を掛けられたり、野菜や梅・栗・柿・みかん等の差し入れがある。集会所の利用者が事業所を訪問してくれたり、利用者が集会所のカラオケに参加している。また、老人クラブとの交流がある等、近隣の方々とふれあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる情報交換会へ参加し、役場や地域包括支援センター、他事業所と共に協力体制を築く共に自施設の行事には地域の方々にも参加して頂き、交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的開催している。施設の運営状況の報告、施設側からの問題提起や質問、意見把握等行い理解、協力を求めると共にサービスの向上に活かせる様努めている。	利用者家族・自治会長・民生委員・町職員・地域包括支援センターが参加し、2ヶ月に1回開催している。事業所の状況報告や事業報告、行事計画について説明し、意見や要望等を話し合っている。	今後、さらに地域の理解と支援を得る為に、地域の有識者や駐在所の巡査、保健師等から時々の地域の話題を提供してもらい、運営推進会議の議題として取り上げる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当者とは常日頃から来訪や電話などで密に連絡を取っており、連携、協力体制が取れている。情報交換会や運営推進会議にも参加して頂いているので普段から関係作りが構築されている。	町の担当者や地域包括支援センター職員と連携し常に情報交換をしている。生活保護受給者が入所しており、生活保護の担当職員との関わりがあり連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々身体拘束を行わない意識を持って業務に取り組んでいる。また全体会議で身体拘束ゼロに取り組んでいる。	玄関の施錠はしていない。3ヶ月に1回、身体拘束防止委員会を開催している。職員会議で身体拘束について研修を実施し、職員の共通認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の場でも勉強会を行い、虐待防止に取り組んでいる。またニュースや新聞などで取り上げられた時には朝礼時に申し送り詳細説明や自分達が注意する事など虐待防止に対する啓発も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用しているご利用者様はいないが、ご家族様から質問などがあった場合は対応できるような支援体制を整えるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書とともに口頭で読み上げ十分に理解して頂けるよう具体的例等を交えて説明を行っている。また変更等があった場合にはご家族様に連絡を行い説明の場を設け同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様から頂いたご要望、相談は対応した職員が指定の様式に記入し、施設での対応、解決ができる様努め、内容によっては法人での対応も行っている。	年に1回、家族会を開催している。面会時に家族の意見を聞くようにしており、面会の少ない家族は電話で意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議の際にも意見を聞く機会を設けている。又、普段から職員の意見に耳を傾け業務の改善や修正に取り組むよう心掛けている。意見は本部に必ず伝えている。	毎月開催する職員会議やユニット会議で職員の意見や要望を聞いている。また、年に2回の管理者と職員との個別面談で業務に関する意見等を聞き、事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネージャー、看護師等各種研修の実施や各種資格手当の支給、講座受講料の免除など職員のスキルアップ支援に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新人、管理者、リーダー研修等を実施。施設内では全体会議の中で勉強会を実施し、職員の質の向上に努めている。外部に於いても勉強会や情報交換会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や情報交換会、行事を通じ他事業所との交流の機会を持ち、いつでも連絡が取れ、意見交換ができる体制づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の時間を設け、ご本人様の意向を伺い、不安や悩み、思い等を傾聴し良好な関係作りに努め、少しでも不安を取り除き安心して入居して頂ける様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時間を設け、ご家族様の心境やこれまでの苦悩等傾聴し、思いを共有する事でご家族様、施設側が共に協力し、ご利用者様の支援が出来るような協力体制作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様との事前面談を設け双方の意向を把握すると共にサービス内容の提案、協議を行い必要があれば役場、地域包括支援センターや、他事業所等への相談も含め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の希望やできる事を把握し、日常における生活の手伝いや得意な仕事を共にを行い、家庭に近い関係が築ける様取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、ご本人様とご家族様の絆が途切れない様定期的な連絡を行って情報共有を図り、ご家族様と一緒にご本人様の支援内容を検討し、双方が同じ思いでご本人様を支援できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙、電話連絡等は、ご本人様の希望に応じて対応している。また、スーパーや薬局、道の駅等への外出支援を通じて馴染みの関係性が途切れない様努めている。	馴染みスーパーでの買い物や、近くの「道の駅」でモーニングを楽しむ利用者がいる。また、家族との外出で買い物に行ったり、馴染みの美容院に行っている利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様個々の好みや性格を把握した上で、1人1人が楽しく生活できる様座席やテーブルの配置、レクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても他のサービス利用や、悩み、相談等があればできるだけ要望に応えられる様努めており、これまで培ってきた関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のささやかな会話やヒヤリングの中からもご利用者様の思いに耳を傾ける様に心掛け、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	日々の会話や行動から利用者の思いや意向の把握をしている。把握が難しい利用者は動作や仕草などで把握するように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に協力して頂き、ご本人様の生活歴や生活環境、趣味趣向等の情報収集に努めている。また日々の日常会話の中からも情報収集を行ない、新たな情報は職員間で共有する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックをはじめ、会話や表情などからその日のご本人様の心身の状態を把握し、柔軟な対応で個々の支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成前にはご本人様、ご家族の意向を聴取し、フロアー職員全員でサービス内容を検討し、より良い方向になるよう作成にあたっている。	利用者家族の意見や要望を聞き、担当職員の意見を参考に介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や小さな変化、気づきも記録に残し、申し送りで情報共有している。また、その記録も参考にし、サービスの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の状況に合わせて通院介助や買い物等外出支援など施設で出来る限りは対応させて頂くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事を通じてボランティアの活用や各事業所主催の催し物への参加等地域資源を活用しながらご利用者様個々の地域との繋がりが途切れない様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人様、ご家族様の意向もふまえ通院、薬などの負担軽減を図るため施設提携の主治医への移行案内もやっている。専門医や馴染みのかかりつけ医に関しては関係が継続できる様情報提供を行い支援をおこなっている。	利用者全員が事業所の協力医から、月に2回の訪問診療を受けている。24時間対応が出来る協力医である。他の専門医への診療は家族にお願いをいしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は、介護記録、申し送り等ご利用者様の状態を把握し、介護職員と情報共有、意見交換する事で処置や受診などご利用者様に対して適切な対応が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際には、面会を行い病院関係者から状態徴収すると共に担当者と密な連携を取れる事で早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針の説明を行っている。また、入居後もご本人様の状態に合わせて、その都度ご家族様と共に対応を協議している。必要時には主治医による相談、説明の場も設けている。	入居時に終末期の対応指針について、本人・家族に説明をしている。重度化した場合は、協力医・家族・職員と話し合いを持ち対応をしている。一昨年は4名、昨年は1名看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時においては、勉強会を開いて適切な対応ができるよう取り組んでいる。また、主治医、看護師、管理者、リーダーへは24時間連絡可能となっており、適切な指示が受けられる様体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や地震に対する対策検討などを実施している。また、運営推進会議の中でも行政に相談、助言を頂き、対策に努めている。	年に2回、消防署の指導により防災訓練を実施している。2名の夜勤専任職員に予告なしで夜間想定訓練を実施した。地元消防団の協力や地域住民の協力体制について話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様個々の性格を日々把握する様 努め、個々に合わせた話し方や接し方を状 況に応じて柔軟に対応し、個人の尊重に配 慮できる様努めている。	呼称はさん付けで呼んでいる。まず本人の気持ち を大切に考えてさりげないケアを心掛けている。 利用者への言葉遣い、トイレ誘導時や入退室時 の声掛け等でプライバシーを損なわないように配 慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中でご利用者様の思 いを傾聴し、出来る限り希望が叶えられる様対応 している。また、職員側が一方向的に決めるのでは なく必ずご利用者様が過ごしたい様に過ごして頂 ける様支援、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	生命にかかわる事や医療的に必要なことは 除き、基本的にはご利用者様が過ごしたい ように過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	髭剃りや整髪など定期的に支援し、清潔な身な りて過ごせるよう努めている。またご自身での対 応が難しい場合は本人様の身体的状態や季節 などに合わせた適切な身だしなみができるよう支 援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	毎食のメニューは食堂の見える所に掲示 し、楽しみの一つとなっている。また手伝わ ていただけ方には個々に合わせた作業を 職員と共に参加いただいている。	法人で作成した献立を職員が事業所で調理をして おり、利用者の希望を調理に反映するようにして いる。利用者と職員は同じ料理と一緒に食べてお り、利用者で作った手作りおやつを食べたり、中庭 で手作り弁当を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士によりカロリーなど配慮されたメニューを 提供しつつ利用者様一人一人の状態に合わせ 食事形態や量を対応している。またその日の状 態に合わせても支援の仕方を変えることで必要 量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、利用者様1人1人に声掛けを行い、口腔 ケアの実施を促し、必要な方には支援を行なっ ている。口腔内の不具合についてもその都度歯科 往診時に相談し対応していただき口腔内の清潔 保持に努めている。又、毎月歯科医師より講習 を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位のとれる方はトイレに誘導し、座位のとれる方はベッドからポータブルトイレに移乗するなど出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援に努めている。	排泄記録表を使用し、排泄パターンを把握している。トイレ誘導や見守りにより、出来る限り自力でトイレで排泄するように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝申し送りにて排便状態が把握できるよう情報を共有し、便秘状態に合わせて医師、看護師の指示を受け実施している。また日頃より便秘解消に向けて身体を動かす機会を取り入れるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴日と合わせ希望時、必要時に出来る限り対応できるよう努めている。また順番や時間など個々の習慣等に配慮することで気分よく入浴してもらえるよう支援している。	週に2回午前中の中入浴をしている。個浴と大浴槽があり、数人で入浴して温泉気分を味わっている利用者がいる。入浴剤を使用しており、菖蒲湯やゆず湯を提供し、季節を肌で感じ楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要最低限の決まりはあるが基本的には個人の習慣に合わせて自分の時間を過ごしていただいている。そのための環境も整えるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をファイリングし、いつでも情報収集できるようにしている。また服薬の変更があった場合、その都度申し送りにて情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや能力に配慮して家事手伝いや役割を担ってもらい、また外出支援やレクリエーションなどを通じて日々の生活の中に満足感を感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や中庭作業など日常的な屋外活動を初め、希望に応じて個別での買い物や地域の行事への参加などできるかぎり支援している。また職員の外出時にも声をかけ外出できる機会を提供できるよう努めている。	事業所周辺を散歩している。中庭で散歩をしたり、お茶を飲んだり、手作りおやつを食べている。買い物や集会所に出掛ける利用者がいる。家族と外出や買い物に行く利用者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様、家族様の希望や同意をいただいて個別に所持している方もいる。また通院時や外出時など金銭の支払いができるよう個別で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は基本的に自由に行っていたが、その際必要な支援は個々に合わせて行っている。また利用者様、家族様それぞれの事情にも配慮して個別対応も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを行う事で季節を感じていただけるよう支援している。また、昼夜ともに空調や照明の調整を行い、過ごしやすい環境整備に努めている。	居間兼食堂、廊下に天窓があり採光が良くとても明るい事業所である。中庭には花や木が植えてあり、季節感を感じさせてくれる。壁には行事写真や利用者が作成した作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでは気の合う利用者様同士が互いに同じ時を過ごせるよう配慮し、またソファや個別スペースを設けることで一人の時間も過ごせるよう環境整備に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様を使い慣れた物品などを設置することで自宅と同じような環境で過ごしていただけるよう配慮するとともに認知症状や身体能力に合わせて安全面での環境整備も行っている。	エアコン・クローゼット・ベットが設置されており、使い慣れた家具や寝具を使用している。掃除が行き届き、清潔で整理整頓された居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々が自主的に取り組めるよう掲示物を工夫し環境を整えるなど自立支援に取り組んでいる。		